

第1学年 生活科学習指導案

日 時 平成16年10月15日(金) 5校時

児 童 1年2組 男12名 女12名 計24名

指導者 佐藤 多馨子

場 所 1年2組教室

1 単元名 いきものとなかよし

2 単元について

(1) 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の生活科の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。」を受け、子どもたち一人一人が身の回りの生き物とふれ合う活動を中心に設定したものである。この活動を通し、身の回りの生き物への興味・関心を深め、いろいろな生き物の体のつくりや特徴、また、それらが生命を持っていることに気づき、進んでかかわったり大切にしたりすることができるようにすることをねらいとしている。

(2) 児童の実態

子どもたちは、これまでの校庭での遊びや学校の周りの探検を通して、少しずつ身の回りの生き物に目を向けることができるようになってきている。外の活動で小さな生き物を見つけると、大騒ぎして捕まえようとしたり、休み時間にはビニール袋を持って嬉々として虫探しに出かけたりして、ほとんどの子どもは「生き物が好きだ。」と答えている。反面、進んでかかわろうとする子どもは少数にとどまり、さらに、自分で生き物の世話をした経験のある子どもや、生き物の世話の仕方、えさの種類が分かるなど生き物に触れて実際に世話をしている経験をしている子どもは限られてくる。生き物に関心がありながら、さわれない子どもや眺めているだけにとどまっている子どもも見られ、生き物とかかわる体験が不足していることが伺われる。生き物が好きで昆虫などを捕まえて喜んで教室に持ってきた子どもも、虫かごに入れたままえさを与えなかったり、いつの間にか忘れてたりと生き物の生命を大切にし、根気強く世話をしようとする態度は身につけているとはいえない。

(3) 活動の構想

単元を通して、子どもの思いや願いを大切にし、一人一人が生き物と直接、継続してかかわれるよう活動の工夫をしたい。そのために、「見つけたよカード」や「見つけたスピーチ」に取り組みせ、自分たちの身の回りの生き物を意識的に見る目を養いたい。さらに、自分の活動を振り返り、自分の気づきをより明確に意識したり、分かるように伝えたりするために、活動の前に視点を与え、その視点について振り返らせるように「振り返りの場」を設定したい。

「つかむ」段階では、この単元全体を通して、生き物の体のつくりまで子どもたちの目が自然に向いていくようにするために、「あり」に着目する活動を設定する。「あり」という一つの昆虫をよく見ることにより、普段見慣れているはずの虫や生き物でもよく見ていなかったこと、気づいていないことや知らなかったことがあることに気づかせ、これまでの生き物への見方を広げ、これからの活動に意欲的に取り組む動機付けとしたい。

「かかわる」段階では生き物探しや虫取り大会を行い、楽しみながら生き物探しをさせることを通して、生き物への関心を高めたい。生き物をより身近に感じさせるために、捕まえた生き物の名前を進んで調べられるような環境を整えたい。つかまえた虫は、可能な限り学級で飼育させたい。飼育活動を通して対象を観察させることにより、「生き物探し」の活動で対象を注意深く観察できなかった子どもも、身近でよく

観察したり、世話の方法を自分たちで考えたりするなど積極的に生き物にかかわることができるようになる。そして、その活動が、生き物の様子や変化をより意識的に見ることへとつながり、今まで気づかなかったことへの新たな気づきにつながっていくと思われる。また、生き物を世話する活動を通して生き物への愛着を持ち、生命を大切にしようとする態度を自然に養っていくことができると思われる。

「まとめる」段階では、これまでの生き物とかかわる活動における自分の思いや、気づきを振り返らせながら、まとめる活動に取り組ませたい。その際、絵本などの作品を例としながらイメージを持たせたり、作り方を選択させたりしたい。また、一人一人の子どもの思いが表れるように、子どもの発想を取り入れることにより、活動に広がりを持たせたい。まとめる活動に取り組ませる中で、これまでの自分が活動したことや気づき、思いを表現させることにより、自分の気づきをより明確にさせていきたい。また、表現した自分の思いや気づきを、友達や教師に認められたり、ほめられたりする場面を設定することにより、さらに自分のがんばりやよさに自信を持たせ、次の学習への意欲へとつなげたい。

3 単元の目標

【生活の関心・意欲・態度】

- ・ 身近な生き物に関心を持ち、進んでかかわろうとする。

【活動や体験についての思考・表現】

- ・ 生き物の世話やふれ合いを通して、適切な世話の仕方を考えたり気づいたことを自分なりの方法で表現したりすることができる。

【身近な環境や自分についての気づき】

- ・ 生き物の世話やふれ合いを通して、生き物の特徴や生き物は生命を持っている大切な存在であることに気づく。

4 単元の指導計画（15時間）

段階	活動内容	教師のかかわり	評価規準（評価方法） 【関】 関心・意欲・態度 【気】 気づき 【思】 思考・表現	身につけたい力 （船小6力）
つかむ (1)	<p>1 オリエンテーション・・・・・・・・</p> <p>・1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な虫、ありを描く。 ・ありを探して自分の絵との違い似ているところに着目しながら、ありの体の様子や特に気づく。 ・気づいたことや不思議に思ったことなどを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物クイズをして学習への意欲を持たせる。 ・ありをつかまえるための用具や容器を準備させておく。 ・ありを観察するときの視点を持たせる。 	<p>【関】 気づいたことや、不思議に思ったことを発表しながら、虫やその他の生き物への関心を持とうとする。（観察）</p> <p>【気】 ありの体の様子や特徴に気づくことができる。（観察）</p>	課題設定能力
かかわる (6)	<p>2 秋の虫探しをしよう。・・・・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫や他の生き物を探す。 ・捕り方を教え合う。 ・見つけたものを見せ合う。 <p>3 生き物の飼育をしよう。観察しよう。・・・・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お世話の仕方を考える。 <p>・飼いながら気づいたことを観察カードに記録する。</p> <p>・どんな仲間に分けられるか考えてみる。</p> <p>3/3 《本時》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけた生き物を見せ合わせ、色々な生き物を観察させる。 ・生き物の名前を聞いたり調べさせたりして、つかまえてきた生き物への関心を高めさせる。 ・お世話の仕方を考えさせたり、教え合わせたりする場を設定し生き物とのふれあいが少ない子どもも飼育活動への意欲を持てるようにする。 ・気づいたことを振り返ることができるようにカードに記録させる。 ・子どもそれぞれの観点で生き物を仲間わけできるように活動への見通しを持たせる。 	<p>【関】 虫やその他の生き物を楽しみながら探そうとする。（観察）</p> <p>【関】 進んで生き物のお世話をしようとする。（観察）</p> <p>【気】 生き物の様子や特徴に気づくことができる。（観察・カード）</p> <p>【思】 気づいたことなどを、カードに記録したり伝えたりすることができる。（観察・カード）</p> <p>【思】 観点にそって生き物の特徴を比べながら仲間分けをすることができる。（観察・カード）</p>	<p>問題解決能力</p> <p>問題解決能力</p> <p>総合された知識</p> <p>表現・創造力</p> <p>問題解決能力 思考・評価力</p>
まとめる (8)	<p>4 どんなまとめにしようかな。・・・・6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫や生き物のことを誰に教えようか考える。 ・図鑑・絵本・紙芝居などまとめ方を考える。 <p>5 まとめ発表会をしよう・・・・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に分かるように話す。 ・分からないことは質問する。 ・よかったと思うことを感想として話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察カードなどをもとにして、これまでの活動を振り返らせそれぞれの子どもに表現への思いを持たせる。 ・作品例をもとにして話し合わせ、まとめる活動へのイメージを持たせる。 ・子どもの思いや自由な発想が生かせるようにする。 ・それぞれの子どもの伝えたい思いが、伝えられるように発表の形態などを工夫する。 	<p>【思】 記録してきた観察カードをどのようにまとめるか考えて工夫して表すことができる。（作品）</p> <p>【気】 友達のよさに気づくことができる。（観察） （ふりかえりカード）</p>	<p>表現・創造力</p> <p>自信・成長力 思考・評価力</p>

5 本時の指導

(1) 目標

- 【思考・表現】 ・ 観点にそって、生き物の様子や特徴を比べながら仲間分けをすることができる。
- 【気づき】 ・ 仲間分けの活動を通して、それまで気づけなかった生き物の様子や特徴、また生き物同士の似ているところや違うところに気づくことができる。

(2) 展開

段階	活動内容 ・ 予想される子どもの反応	教師の支援と評価	備考
つかむ (10)	<p>1 これまでの活動を想起する。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">いきもののなかまわけをしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・かぶとむしとくわがたは似ているよ。 ・飼ったことがない虫は、分からないなあ。 ・むずかしいな。できるかな。 ・かんたんだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの飼育活動や「みつけたスピーチ」を想起させ、生き物の学習への思いを持たせる。 ・生き物クイズを出し、本時の学習への意欲づけを図る。 	
かかわる (20)	<p>3 生き物の仲間分けをする。</p> <p>○ どんな分け方ができるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体 ・えさ ・住み方 ・動き方 ・好きなところ <p>○ 仲間分けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぶとむしの足は6本だ。かたつむりは足がないなあ。 ・ばったのえさは葉っぱだよ。だけど、かまきりは虫を食べるよ。 ・だんごむしやありは仲間で住むよ。巣があるよ。 ・こおろぎやばったはジャンプするよ。とんぼやちょうちょは飛ぶよ。 ・ばったやこおろぎははっぱや土が好き。だんごむしは湿ったところや石の下がすき。かたつむりとかえるとあめんぼは水が好き。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>A：観点にそって、生き物の様子や特徴を比べながら仲間分けをし、新たな生き物の様子や特徴、生き物同士の似ているところや違うところに気づくことができる。</p> <p>B：観点にそって、生き物の様子や特徴を考えながら仲間分けをすることができる。</p> <p>※ 様子や特徴がよく分からない生き物があった場合は、知っている子どもに発表させ、気づきを皆に広げさせながら分けさせていくようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの飼育活動をもとにし、根拠を説明させながら自分が飼っていた生き物やよく知っている生き物を仲間に分けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物カード
まとめる (15)	<p>5 本時の活動を振り返り、次時の予告をする。</p> <p>○ 仲間分けをして気がついたことや思ったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○と□□が似ていました。 ・○○は葉っぱを食べると思っていたけど、虫を食べると聞いてびっくりしました。 ・虫を食べる虫がたくさんいました。 <p>○ 今日の活動の感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○を飼ったことがなかったから、分からなかったけど、○○君が教えてくれたので分かりました。 ・もっといろいろな生き物を飼ってみたいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動で気づいたことや思ったことを発表させる。 ・子どもの価値ある活動（言動）を取り上げ、そのよさを気づかせ、全体に広げようとする。 	

(3) 評価

- 【思考・表現】 ・ 観点にそって、生き物の特徴を比べながら仲間分けをすることができたか。
- 【気づき】 ・ 仲間分けの活動を通して、それまで気づけなかった生き物の特徴や様子、また生き物同士の似ているところや違うところに気づくことができたか。